

PLT ショートプログラム for Forest Nova 2012

ファシリテーター： 角田尚子 (連絡先: eric@eric-net.org)

2012 年 8 月から、緑のダム北相模 小原の森定例活動を行なっている学生団体 Forest Nova の学生を対象に、活動終了後の 30 分を活用して、「PLT ショートプログラム」を実践した。

ねらい:

- 学生団体として、小学生らを対象に環境教育プログラムを実践している参加者と、環境教育の目標、内容、方法について共有する。
- PLT Project Learning Tree 木と学ぼうのアクティビティを体験する。
- PLT の教授方法の特徴を理解する。

対象:

- 麻布大学を中心に、千葉大学、首都大学東京、御茶の水大学などから参加している大学生、1 年 2 年生。
- 毎回 10 名程度。
- 出席率は 6 割程度。これは、通常の授業でも 1/3 程度の欠席と似ているかも。

時間:

- 各回 30 分程度。プログラムに参加した感想を聞くには、時間が足りない。
-

以下が五回の内容。

回	日時	内容	資料
第1回	2012.8.5	森の健康診断 PLT Focus on Forestより	森のワークブックFoFr120704
第2回	2012.10.7	環境教育の目標・内容・方法 EEMより	Forest Nova121007
第3回	2012.11.4	あなたの子どもに自然が足りない、それぞれの木	Forest Nova121104
第4回	2012.12.2	幼児期からの環境体験	Forest Nova121202
第5回	2013.2.3	<u>学びを点検する視点＝ガイドライン</u>	Forest Nova130203

次の 5 回ほどで、「アクティビティ実践」をしていく予定である。

以下、当日のレジュメ。

PLT, Project Learning Tree, 木と学ぼう とは?

1976年に始まった米国の環境教育教材&指導者養成プログラム、最大規模を誇る。ERICは1992年から日本事務局。各州にコーディネーターを置き、全米で年間2万人のファシリテーターを養成している。

PLT ファシリテーター養成講座とは?

参加型の教授法で行なわれる「ワークショップ」と呼ばれる「ファシリテーター認定講座」は、6時間を基本とする。

指導者育成のワークショップは、日本ではERICで行なわれる12時間のみ。ここで資格を得た人たちが、6時間研修を通じて、PLTの実践ができる人材育成を、日本全国で、毎年30回ほど行なっている。

PLT ファシリテーター養成講座の要素

PLTという教材とその教授法を理解し、実践に応用できるようにすることがファシリテーター養成講座の目的である。そのために以下のような要素が講座に含まれるのは誰が考えても理解できることであろう。

- ◇ PLTの学習方法の特徴
- ◇ PLTについて
- ◇ PLTのリソースの活用とネットワーク
- ◇ アクティビティの体験
- ◇ アクティビティ実践

では、これらの要素をどのような順番で構成するか、その構成そのものに、PLTの教授法の考え方が示されている。

PLTの教授法の特徴

1. 構成主義理論と経験学習
2. 全体言語主義と多様な学習モード
3. 協同学習とわたし、あなた、みんなのエンパワーメント
4. 問題解決学習とコミュニティの課題解決
5. 概念・理念を教育的ツールに

PLT 教材リスト

Project Learning Tree 「木と学ぼう」 PreK-8 2006 年改訂版
Introductory Module ～より質の高い環境教育を目指して～
 発行日 2006 年 11 月 22 日 第 1 版第 1 刷発行
 2007 年 11 月 1 日 第 2 版第 1 刷発行
 Project Learning Tree 「木と学ぼう」 Energy & Society + PreK-8 関連アクティビティ集 エネルギー
と社会 ～子どもたちと地球温暖化問題を考えるエネルギー教育～
 発行日 2007 年 6 月 22 日 第 1 版第 1 刷発行
 Project Learning Tree 「木と学ぼう」 PreK-8 野外活動関連アクティビティ集
Outdoors 20 野外活動 20 ～子どもたちに豊かな自然体験と確かな教育を～
 発行日 2007 年 9 月 1 日 第 1 版第 1 刷発行
 2009 年 7 月 1 日 第 2 版第 1 刷発行予定
 Project Learning Tree 「木と学ぼう」 PreK-8 2006 年改訂版 & Places We Live **Places We Live** ～
 わたしたちの住む場所～
 発行日 2008 年 2 月 1 日 第 1 版第 1 刷発行
 ©PLT PreK-8 木と学ぼう 合冊版 発行日 2009 年 8 月 1 日
 PLT Environmental Experience for Early Childhood
 木と学ぼう 幼児期からの環境体験 発行日 2010 年 7 月 22 日
 Focus on Risk リスクに焦点 発行日 2012 年 4 月 23 日

2012 年 10 月 7 日 ショートプログラム「環境教育の目標・内容・方法」

資料「トビリシ宣言」と「身につけたい力」を参考に、次のことを整理する。

環境教育の目標	内容	方法

RQ: なぜ、目標・内容・方法、そしてさらには評価のあり方が、統合されている方がよいのか?

RQ: 環境教育は、なぜ「知識中心」の「講義とノートとテスト」というやり方では十分ではないのでしょうか? 特に、どのような目標が、環境教育の教授法に講義型とは異なる方法を必須とするのでしょうか?

環境教育の原則

環境教育は

- ・全体的な環境を考慮に入れること。自然環境、人工的環境。技術的環境、社会的環境(政治的、経済的、文化的、歴史的、審美的など)
- ・生涯にわたる過程であること。就学前に始まり、すべての学校教育および学校外教育において継続されること。
- ・学際的なアプローチを取ること。全体的でバランスのとれた観点を提供するためにそれぞれの教科からの内容を活用すること。
- ・地域、全国、アジアなどの地域、および国際的な観点から、主要な環境問題を取り上げ、生徒達が他の地理的地域における環境条件についての新たな洞察が得られるようにする。
- ・歴史的な観点を考慮しながらも、現在および未来における環境の状況に焦点を当てること。
- ・環境問題の解決および予防のためには地域、全国、国際的な協力が重要でかつまた必要であることを伝える。
- ・開発と成長の計画に環境の観点を考慮することを明確に主張する。
- ・学習者が自分たちの学習体験を計画するのに一役かえるようにする。同時に、意志決定をし、その意志決定の結果を受け入れるような機会を提供する。
- ・環境についての感性、知識、問題解決技術、価値観の明確化などを発達段階に応じて形成すると同時に、特に早期教育段階では自分の地域社会に対する環境についての感性に強調点をおくこと。
- ・環境問題の現象および真の原因を学習者が発見できるように手助けする。
- ・環境問題の複雑さを強調し、そのために批判的ものの見方および問題解決技術を身につけることの大切さを強調すること。
- ・多様な学習環境を活用し、環境について、そして環境から学ぶ教授/学習手法の幅広さを活用し、実践活動および直接体験を重視すること。

(1977年ソ連グルジア州トビリシで開催されたユネスコ会議「トビリシ宣言」より)

『環境教育指導者育成マニュアル-気づきから行動へ 参加型研修プログラム』p.3 参照
角田尚子・ERIC 国際理解教育センター著、1999

1. 復習

森のワークブック

第1回 2012.8.5 森の健康診断 PLT Focus on Forest より

FoFr120704

第2回 2012.10.7 環境教育の目標・内容・方法 EEM より

Forest Nova121007

3. 森の健康診断、良かった点
4. 環境教育の目標・内容・方法を説明する。
5. 学んだことは?

2. あなたの子どもに自然が足りない

Last Child in the Wood Saving Our Children from Nature-Deficit Disorder

Richard Louv, Algonquin Books of Chapel Hill, 2005

邦題 あなたの子どもに自然が足りない

<http://ericweblog.exblog.jp/3842327/>

Q: 自然欠乏症はなぜ起きていると思うか? [因果関係図]

自然欠乏症

Q: 自然体験が少ないと、どんな問題が起こるのだろうか? [連想図]

自然欠乏症

3. それぞれの木に必要なもの PreK-8 Activity 27

気づいたこと・感じたこと・学んだこと

1. 復習

回	日時	内容	資料
第1回	2012.8.5	森の健康診断 PLT Focus on Forest より	森のワークブック FoFr120704
第2回	2012.10.7	環境教育の目標・内容・方法 EEM より	Forest Nova121007
第3回	2012.11.4	あなたの子どもに自然が足りない、 それぞれの木に必要なもの	Forest Nova121104

- 1 森の健康診断、良かった点
- 2 環境教育の目標・内容・方法を説明する。
- 3 「あなたの子どもに自然が足りない」社会的課題は何でしょう？
- 4 学んだことは？

2. 幼児期からの環境体験

PLTの教授法の特徴

1. 構成主義理論と経験学習
2. 全体言語主義と多様な学習モード
3. 協同学習とわたし、あなた、みんなのエンパワーメント
4. 問題解決学習とコミュニティの課題解決
5. 概念・理念を教育的ツールに

PLTの幼児期からの環境体験ガイドは自然に根ざした探索、芸術、文学、数学、音楽、動きや、野外での遊びを幼児期教育プログラムに統合するものです。子どもたちが探索し、発見し、表現力豊かにコミュニケーションできるようにするものです。

- ・ 子どもが見たり、触ったりすることができるモノに活動の焦点をあてる。
- ・ 子どもが能動的な学習をうながす。学びは、認知的、感情的、肉体的、社会的、すべての領域で起こっています。
- ・ 情報ではなく、体験に焦点をあてる。
- ・ 肉体的なニーズの緊急さを理解する。
- ・ 大きな自我を認める。

3. Activity 1 「ものの形」

<http://pltec.exblog.jp/i7/>

1. 復習

回	日時	内容	資料
第1回	2012.8.5	森の健康診断 PLT Focus on Forest より	森のワークブック FoFr120704
第2回	2012.10.7	環境教育の目標・内容・方法 EEM より	Forest Nova121007
第3回	2012.11.4	あなたの子どもに自然が足りない、 それぞれの木に必要なもの	Forest Nova121104
第4回	2012.12.2	幼児期からの環境体験	ものの形

6. 森の健康診断、良かった点

7. 環境教育の目標・内容・方法を説明する。

8. 「あなたの子どもに自然が足りない」社会的課題は何でしょう？

9. 「ものの形」-幼児期からの環境体験

10. 学んだことは？

2. 学びを点検する視点＝ガイドライン

Guidelines for the Preparation and Professional Development of Environmental Educators より

<http://resources.spaces3.com/277ac59d-6b5c-452c-bdca-5191c2a879e2.pdf>

<http://www.naace.org/publications/guidelines-for-excellence>

3. 自分たちの指導者としての資質を伸ばすための計画づくり

【記録と追加】

1. 4人一組で、これまでの4回をふりかえる。他者に説明する。
2. 「何を、どのようにやったか」に加えて、「なぜ、それを、そのように行なったか」を説明できることが大切。三つの省察の力。
3. 評価は誰のため?
 - (ア) 授業実践者が、授業評価を行なうため
 - (イ) 学習者自身が、達成を知るため。
 - (ウ) 教育の説明責任を果たすため。
4. では、誰が、何を、どのように評価することが妥当なのだろうか?

実践のための省察の力

教員はアクター、デザイナー、エバリュエイターとしての側面を持ちつつ、授業や指導の局面で「教育的瞬間」 **teachable moment** に瞬時に対応することが求められるという。

「行為の中の省察」 **reflection-in-action**

「活動の中で働く力」

「暗黙知」

省察 **reflection**

教師は反省的実践家 **reflective practitioner**

三つの省察

「技術的」 効果・効率

「実践的」 成果・成長

「批判的」 近代教育そのものを問い直す視点

ヴァン・マーネンより

・新しい時代の教職入門、秋田喜代美・佐藤学、有斐閣アルマ、2006

NAAEE(北米環境教育連盟)

環境教育指導者に求められる能力のための6テーマとガイドライン

翻訳者：木野美穂 構成：田中幸子 2006.06.11

Excellence in Environmental Education -Guidelines for Preparation and Professional Development of Environmental Education

1.環境リテラシー

指導者は教えようとしている内容と教えるスキルについて実際に役立つ知識を得る。少なくとも、自分が教える対象にふさわしい内容と教えるスキルについて熟達していなければならない。

- 1.1 問いをたて、分析し、解釈するスキル
- 1.2 環境のプロセスとシステムに関する知識
- 1.3 環境問題について理解し、説明するスキル
- 1.4 情報を咀嚼し、行動する個人的、市民的責任

2.環境教育の基礎

指導者は、環境教育の分野の目標、理論、実践、歴史の基礎的な事柄について理解している。

- 2.1 環境教育の本質的な特徴と目標
- 2.2 環境教育を、場、資源、条件を加味して様々に展開する
- 2.3 環境教育という分野の歴史の変遷と現在、未来

3.環境教育指導者の専門家としての責任

指導者は環境教育の実践に伴う責任を理解し、引き受ける

- 3.1 適切な水準を満たした模範となる環境教育の実践
- 3.2 アドボカシーでなく、正確でバランスのとれた教育に重点を置く
- 3.3 学び続け、専門性を発展させる

4.環境教育の計画と実施

指導者は、効果的な指導を計画し、実践するために、質の高い教育の本質的な部分と、環境教育特有の側面を統合する

- 4.1 学習者についての知識
- 4.2 指導方法論についての知識
- 4.3 指導の計画
- 4.4 環境教育の教材とリソースに関する知識
- 4.5 学習を支援するテクノロジー
- 4.6 指導環境
- 4.7 カリキュラムの構想

5.学びを促進させる

指導者は、とりわけ争点があり、学習者が自分自身の見方と他者の見方について真剣にふりかえる必要のある環境問題について考えるときには、学習者が開かれた問いや調査に従事できるようにする。

- 5.1 環境について学び、環境について探究していく学びの風土
- 5.2 誰もが参加し、協力する学びの雰囲気
- 5.3 新たな課題への対応、様々な教授法の活用、他分野の指導者との協働などの柔軟な指導

6.アセスメントと評価

環境教育指導者は、指導とプログラムに不可欠なアセスメントと評価についての知識、能力を持ち、コミットメントする。

- 6.1 学習者の学びを評価する
- 6.2 指導の一環として学習者とともにアセスメントを行う
- 6.3 指導経験とアセスメントを指導の改善に活かす
- 6.4 プログラムを評価する

環境教育教材：質の高い環境教育のためのガイドライン 要約

#1 「公正さ」と「正確さ」

環境教育教材には、環境問題・関連した課題・状況を説明する際、またそれらの多様な見方を示す際には公正さと正確さが求められる。

- 1.1 事実に関する正確さ
- 1.2 さまざまな視点や理論のバランスのとれた提示
- 1.3 探求を促す姿勢
- 1.4 多様性を反映させる

#2 「深み」

環境教育教材は、子どもの発達段階別に適した、自然・人工的環境に対する気づき、環境における概念・状況・関連した課題に関する理解、感情の気づき・価値観・姿勢・環境に関連した課題の核心への認識を育むものであること。

- 2.1 気づき
- 2.2 概念に重点を置くこと
- 2.3 コンテキスト（事実の前後関係、背景など）における概念
- 2.4 異なる（時間的・空間的）広がり注目する

#3 「スキルを高めることの重要性」

環境教育教材は、学習者が環境問題に取り組むことができるような生涯にわたって有用なスキル（能力）を高めるものである。

- 3.1 論理的・構造的分析、創造的思考
- 3.2 スキルを環境に関連した課題に応用する
- 3.3 行動を起こすためのスキル

#4 「行動指向」

環境教育教材は、市民としての責任を推進するものである。環境問題の解決やそれに伴う行動の土台として、学習者が個人の知識やスキルを活用し、環境問題や関連した課題を判断することを促す。

- 4.1 個人的利害や責任の判断力
- 4.2 自らを有効に働かせる能力や姿勢

#5 「教育的確実性」

環境教育教材は、効果的学習環境をつくりだすための教育的技術を拠りどころとする。

- 5.1 学習者を中心とした教育法
- 5.2 多様な学習法
- 5.3 学習者の日常生活との関連性
- 5.4 広範な学習環境
- 5.5 学際的である
- 5.6 目標と目的
- 5.7 具体的な学習設定における適切さ
- 5.8 学習者の成果や能力・スキル向上

#6 「使いやすさ」

環境教育教材は、十分に考案されたもので使いやすいものである。

- 6.1 明確さと論理
- 6.2 使いやすさ
- 6.3 長期的に使用できる
- 6.4 適応性がある
- 6.5 必要な指導とサポートが伴う
- 6.6 実証されたことを載せる
- 6.7 国・県・地域レベルで要求される事項に適合する

参加したプログラムについて、ぜひ
評価を ERIC にフィードバックしてください。

■ アクティビティ「 」 についての評価

*以下、NAAEE の「質の高い環境教育のガイドライン(Guidelines for EXcellence)」の6つの評価の視点の柱より。

1. 公正さと正確さ	高い	低い
1.1 事実に関する正確さ	_____	_____
1.2 さまざまな視点と理論のバランスのとれた提示	_____	_____
1.3 探究を促す	_____	_____
1.4 多様性を反映させる	_____	_____
(ご意見・改善案など:)
2. 深み	高い	低い
2.1 気づき	_____	_____
2.2 概念に重要を置く	_____	_____
2.3 文脈における概念	_____	_____
2.4 異なる尺度に注目する	_____	_____
(ご意見・改善案など:)
3. スキル向上	高い	低い
3.1 批判的・創造的思考	_____	_____
3.2 スキルを課題に応用する	_____	_____
3.3 行動のためのスキル	_____	_____
(ご意見・改善案など:)
4. 行動化	高い	低い
4.1 個人的な利害関係と責任	_____	_____
4.2 自らを有効に働かせる能力や姿勢	_____	_____
(ご意見・改善案など:)
5. 教授法の確実性	高い	低い
5.1 学習者中心の教授法	_____	_____
5.2 多様な学び方	_____	_____
5.3 学習者の日常生活とのつながり	_____	_____
5.4 広範な学習環境	_____	_____
5.5 学際的である	_____	_____
5.6 目標と目的	_____	_____

参加したプログラムについて、ぜひ
評価を ERIC にフィードバックしてください。

5.7 具体的な学習環境に対する適切さ					
5.8 評価					
(ご意見・改善案など:)
6. 使いやすさ	高い			低い	
6.1 明確さと論理					
6.2 使いやすさ					
6.3 長期的に使用できる					
6.4 順応性					
6.5 フォローアップ・サポート					
6.6 実証されている					
6.7 国・都道府県・地域レベルで 要求される事項に適合する					
(ご意見・改善案など:)

Q1. これらの基準の中で、あなたが環境教育として大切だと思うことは何ですか。

(上位3つ) 1. () 2. () 3. ()

Q2. 日本の環境教育指導者が取り組まなくてはならない課題だと思うことは何ですか。

(上位3つ) 1. () 2. () 3. ()

Q3. このアクティビティの科学的根拠、背景は十分ですか。また追加しておくべきことなどありましたら、お書きください。

()

Q4. これらの基準は環境教育教材の評価の視点として十分ですか。

また、他に足りない視点・改善がありましたら、お書きください。

Q5. その他ご意見、ご自由にお書きください。

()

ご協力ありがとうございました。

e-mail: eric@eric-net.org fax: 03-5907-6095